
動物愛護・適正飼養分野における 愛玩動物看護師の活躍推進について



1. これまでの合同会合における委員からの主な意見	2
2. 背景・社会的なニーズ	4
3. 愛護・適正飼養分野における愛玩動物看護師の役割	5
4. 愛玩動物看護師のスキル	6
5. 愛玩動物看護師の活躍が期待される職域	14
6. 愛玩動物看護師の愛護適正飼養分野での活躍状況	22
7. 更なる活躍に向けて	25

これまでの合同会合における委員からの主な意見

＜地方自治体への登用関係＞

- 特に市区町村では、動物の知識等を有する職員がいないところも存在。動物愛護管理担当職員として愛玩動物看護師を置く等、愛玩動物看護師が基礎自治体でも活躍することを期待。
- 災害時に愛玩動物看護師が何ができるかということを明確にし、愛玩動物看護師の行政への登用に繋げたい。

＜民間企業への登用関係＞

- 愛玩動物看護師もペット産業に就職等でより参入していかなければいけない。
- 愛護・適正飼養分野だと従来ボランティアという形態が多くみられてきたが、職業として、雇用を生み出していくことが重要。
- ペット預かりやトレーニングサービス業における責任者として愛玩動物看護師を雇おうという動きが伝わってくる。
- 営業職は愛玩動物看護師と関係ないと思われやすいが、例えば、動物医薬品の卸会社の営業職として、薬や商品の知識、動物病院のスタッフとのコミュニケーション等に愛玩動物看護師のスキルを活かすことができる可能性。また、動物の保険会社におけるオペレーター業務でも、動物病院からの問合せ、保険の加入者からの問合せ、診療時の保険内容の審査等、愛玩動物看護師のスキルを活かすことができる可能性。
- ペット関連業界は人材不足で、愛玩動物看護師の需要が増えている。

これまでの合同会合における委員からの主な意見

<全般等>

- 愛玩動物看護師は社会のために貢献できる人材ということを啓発することが重要。
- 企業だけではなく、動物関連の団体や保護施設など多様な働き場所がある。
- 水族館は愛玩動物看護師の採用に積極的な部分がある。
- アジアの中では日本が先進的に動物看護教育に取り組んでいるため、日本の愛玩動物看護師国家資格を取得した人材が海外で活躍できることも望ましい。

<教育分野への登用>

- 就職先に、教員、指導者になる道もある。愛玩動物看護師の国家資格保持者が、愛玩動物看護師の教育を、積極的に行う体制が必要である。

<対象範囲への意見>

- 畜産学科で愛玩動物看護師の受験資格が取得できるようになった。愛玩動物看護師の業務独占並びに対象動物等について協議する必要がある。
- 産業動物分野、競馬、牧場、動物園、サファリパーク等、愛玩動物以外の動物を対象としても活躍している・活躍できる分野があるのではないか。
- 愛玩動物看護師の対象動物と業務独占の二つの拡充、拡大について検討が必要である。愛玩動物看護師の業務独占の一つに学校飼育動物の指導を明文化していただきたい。
- 学校で飼育している動物で多いのはウサギ、ハムスター、モルモットなど。愛玩動物の対象動物に、ウサギなども追加されると、愛玩動物看護師が以前の動物看護師と何が違うかが明確になってくる。

<人とペットの適切な関係性の構築へ>

- 現在、我が国において、犬や猫は子供（15歳未満の人口）の数を超える約1,600万頭（推計）が飼育。
- ペット関連産業も多様化。
- ペットの怪我・病気の治療等に加えて、日常的に人とペットの適切な関係性を築いていくことが重要。

<様々な課題が存在>

- 飼育放棄・動物虐待、多頭飼育問題、糞尿等による生活環境悪化等の地域トラブル、悪質な動物取扱業による不適切な飼養、人獣共通感染症等、人とペットを取り巻く様々な課題が存在。
- さらに、少子高齢化、ペット防災などへの対応も急務。

<人と動物の共生する社会の実現に向けて>

人と動物の共生する社会の実現に向けては、

- ①動物の習性を考慮する等動物への配慮
- ②生活環境への支障を防止する等人間社会への配慮

を踏まえた適切な飼い方等を支援する、人と動物の橋渡しとなるプロのコーディネーターが必要。



動物愛護・適正飼養分野の唯一の国家資格：愛玩動物看護師

＜愛玩動物看護師に期待される役割＞

- ✓ 動物のウェルビーイングを目指す。 For Animals
- ✓ 動物に起因する人間社会の課題を解決する。 For people
- ✓ 人間社会の課題を動物を介在することで解決する。 Bridging people and animals

＜具体的なアクション＞

- 動物の日常の手入れに関する指導・助言（グルーミング、爪切り、歯磨き等）
- 人と動物の共生に必要な基本的なしつけ（適正な社会化を促すための教室の開催等）
- 動物介在教育（AAE）への支援（小学校等を訪問し学習活動をサポート等）
- 動物介在活動（AAA）への支援（高齢者施設等でのセラピー活動等）
- 動物飼養困難者（高齢者等）への飼育支援（家庭訪問、電話等での飼育に関する助言等）
- 災害発生時の被災動物適正飼養のための支援（地方自治体との連携協力等）
- 動物のライフステージに合わせた栄養管理（ペットショップ等での食事相談等） など

愛玩動物看護師法の条文上では「愛玩動物の愛護・適正な飼養に係る助言その他の支援」

愛玩動物看護師のスキル



■ カリキュラムで得られる主な知識・技術（愛護適正飼養分野で特に活かせる知識・技術）

基礎動物学
(360時間)

科目名	科目の概要	得られる主な知識・技術
生命倫理・動物福祉 (30時間)	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。	・生命倫理の概念 ・動物福祉の概念 ・愛玩動物、産業動物、実験動物、展示動物の福祉
動物行動学 (30時間)	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	・発達過程と社会行動 ・問題行動の原因と改善策 ・学習理論：基本的なトレーニング法 ・問題行動への対応 ・行動治療
動物栄養学 (60時間)	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	・フードと栄養指導：栄養状態の評価方法
比較動物学 (60時間)	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。	・動物の種類及び特性： - 産業動物：歴史、品種、形態、食性、繁殖生理、飼養施設、飼養方法 - 実験動物：目的、意義、飼養管理、繁殖法、遺伝的制御、微生物学的制御、環境制御、疾患モデル動物 - 野生動物：分類、生物多様性、鳥獣害、絶滅危惧種、外来生物 - 展示動物：意義、動物園等の役割、個体・群管理等

愛玩動物看護師のスキル

■ カリキュラムで得られる主な知識・技術（愛護適正飼養分野で特に活かせる知識・技術）

	科目名	科目の概要	得られる主な知識・技術
基礎動物学 (360時間)	動物看護関連法規 (15時間)	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する	・愛玩動物看護師法 ・獣医療関連行政法規（獣医師法、獣医療法） ・公衆衛生行政法規（感染症法、狂犬病予防法） ・薬事行政法規（薬機法、麻薬取締法）
	動物愛護・適正飼養 関連法規 (15時間)	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。	・愛護・適正飼養関連行政法規（動愛法、ペットフード安全法） ・社会福祉行政・環境衛生法規（身体障害者補助犬法、廃棄物処理法、化製場法） ・野生動物等に関する法律及び条約（外来生物法、種の保存法、鳥獣保護管理法、ラムサール条約、自然公園法、文化財保護法）

愛玩動物看護師のスキル



■ カリキュラムで得られる主な知識・技術（愛護適正飼養分野で特に活かせる知識・技術）

	科目名	概要	得られる主な知識・技術
基礎動物看護学（270時間）	動物感染症学（90時間）	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	・寄生虫の分類と特徴 ・動物感染症：感染経路と伝播様式、消毒、滅菌法、院内感染の予防対策
	公衆衛生学（60時間）	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	・公衆衛生の概要 ・疫学と疾病予防：人獣共通感染症とその対策、狂犬病予防用についての理解 ・環境衛生：衛生動物対策、動物の咬傷による人の健康障害 ・廃棄物の取扱い ・食品衛生：食品衛生と食中毒についての理解、植物性食品の衛生についての理解、食品衛生管理手法

愛玩動物看護師のスキル



■ カリキュラムで得られる主な知識・技術（愛護適正飼養分野で特に活かせる知識・技術）

	科目名	概要	得られる主な知識・技術
臨床動物看護学 (360時間)	動物臨床看護学総論 (30時間)	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	・ターミナルケアに関わる技術： ターミナルケアの目的と意義、QOLやホスピス、緩和ケア、グリーフケア、死亡した動物への対応、エンゼルケア
	動物臨床看護学各論 (120時間)	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する	・兆候や疾患の理解と対処
	動物臨床検査学 (30時間)	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	・臨床検査の基礎 ・血液検査 ・尿検査 ・糞便検査
	動物医療コミュニケーション (30時間)	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	・クライアントエデュケーション：適正飼養を理解し、健康管理のための情報提供、動物と飼い主が良好な関係を構築するための方法、病気の適切な予防法、在宅看護当におけるコミュニケーション技能 ・院内コミュニケーション

愛玩動物看護師のスキル

■ カリキュラムで得られる主な知識・技術（愛護適正飼養分野で特に活かせる知識・技術）

	科目名	概要	得られる主な知識・技術
愛護・適正飼養指導学（210時間）	愛玩動物学（60時間）	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。	・歴史と品種：犬・猫の歴史・品種・特徴・手入れ方法、エキゾチックペット動物の知識等 ・使役動物：使役動物の歴史と福祉、補助犬について、その他の使役犬について ・愛玩動物の飼養管理：犬・猫の適切な飼養管理方法 ・エキゾチック動物の適切な飼養管理方法 ・動物の基本的な取り扱い：動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義、基本的なグルーミング、適切な飼育環境やストレス緩和方法
	人と動物の関係学（30時間）	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	・人と動物の関わり ・人間の福祉と愛玩動物の関わり ・動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育 ・学校飼育動物
	適正飼養指導論（60時間）	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	・愛玩動物の飼養 ・適正飼養の推進 ・災害危機管理と支援 ・動物愛護管理行政

愛玩動物看護師のスキル



■ カリキュラムで得られる主な知識・技術（愛護適正飼養分野で特に活かせる知識・技術）

	科目名	概要	得られる主な知識・技術
愛護・適正飼養指導学（210時間）	動物生活環境学（30時間）	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ペットツーリズム関連施設、ドッグラン、保護収容施設、ペットの教育・訓練施設及び動物介在教育施設の整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去・軽減するための方法や飼育マナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。	・飼養環境整備：ペット共生住宅 ・ペットツーリズム関連施設、ドッグラン ・保護収容施設：動物シェルター、災害時、動物愛護管理センター ・ペットへの教育・訓練施設：社会化トレーニング ・動物介在教育施設：学校飼育動物 ・ペット飼育のマナー・事故やけがなどのリスクの対応：飼育マナー、地方自治体条例、ペット保険
	ペット関連産業概論（30時間）	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	・ペット関連産業における職業倫理 ・ペットの飼養実態と市場規模 ・ペット関連産業の現状と課題 ・動物取扱業：制度の概要、動物取扱責任者としての理解
実習（600時間）	動物愛護・適正飼養実習（60時間）	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	・動物の基本的な取り扱い ・飼い主とのコミュニケーション ・動物愛護管理行政
	動物看護総合実習（180時間）	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	・飼い主との適切なコミュニケーション体験 ・飼い主に対し適正飼養指導の実践

愛玩動物看護師のスキル



■ カリキュラムで得られる主な知識・技術（愛護適正飼養分野で特に活かせる知識・技術）

	科目名	概要	得られる主な知識・技術
実習 (600時間)	動物愛護・ 適正飼養実習 (60時間)	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	・動物の基本的な取扱い ：動物種に応じた安全なハンドリング、動物の安全な散歩・運動、ふれあいのための適切な道具の選択、基本的なグルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り、肛門嚢処置、口腔内衛生管理など）、飼養環境の適切な整備 ・飼い主とのコミュニケーション ：犬や猫の品種に応じた特徴の説明、動物の適切な飼養方法（飼養環境、散歩方法、基本的なしつけなどを含む）の指導、飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導、動物の飼養が困難となっている飼い主への支援の説明、避難所等災害時の飼い主への支援の説明 ・動物愛護管理行政 ：動物愛護管理センターの活動の理解、動物取扱業へ指導すべき内容についての理解、動物取扱業における顧客対応の実践
	動物看護総合実習 (180時間)	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	・動物看護業務の理解 ：愛玩動物を適正に管理する方法についての理解 ・動物看護業務の体験 ：飼い主との適切なコミュニケーションの体験 ・動物看護業務の実践 ：飼い主に対し適正飼養及び療養生活の指導の実践

■ 企業や自治体から期待されるスキル（ヒアリング結果）

<民間企業からの意見>

- 研究機関の企業では、営業職として動物病院の立場を理解したコミュニケーション力、接客業として顧客とのコミュニケーション力に期待
- ペット同伴ホテル事業では、宿泊客のペットの体調管理等への対応力を期待
- ペットショップでは、各店舗にいる動物の飼養管理への対応力を期待
- 教育機関では、臨床経験を踏まえた授業を期待
- 老犬分野では、栄養指導等のほか、犬の代弁者となり、飼い主・獣医師との円滑なコミュニケーション力に期待

<自治体からの意見>

- 災害発生時の被災動物の健康チェック能力に期待
- 飼育動物のしつけ教室の開催や、市民からの問い合わせへの対応力に期待
- 動物取扱業者への立入調査・指導等への対応力に期待

愛玩動物看護師の活躍が期待される主な職域



① 一般飼い主に対する動物の適正飼養における専門職として

<一般飼い主に対する適正飼養指導>

【勤務先例】動物病院、ペットショップ、自治体等

- 愛玩動物の飼養環境や基本的な取り扱いについての指導・助言（飼養上の特徴、飼養環境、体調管理、不妊去勢、社会化訓練等）
- 動物の日常の手入れに関する指導・助言（基本的なグルーミング（シャンプー、ブラッシング、耳掃除、爪切り等）
- 人と動物の共生に必要な基本的なしつけ・問題行動への対応（パピークラスの開催、飼育相談等）
- 動物と飼い主に寄り添った飼養上の助言・支援（老齢動物介護、在宅ケア、グリーフケア等）
- 動物のライフステージにあわせた栄養管理（ライフステージにあわせたフードのアドバイス）

② 地方行政における専門職として

<動物愛護管理行政分野における専門職>

【勤務先例】都道府県・市区町村（動物愛護管理担当課）、動物愛護管理センター・保健所等

- ・ 動物愛護管理担当職員としての業務全般
- ・ 動物の飼い主や地域住民への専門的助言
- ・ 相談対応・動物取扱業者への指導監督
- ・ 飼い方相談および引き取り相談への対応
- ・ 動物愛護管理センターにおける動物の飼養・管理
- ・ 災害時における被災動物への対応
- ・ 多頭飼育問題や飼養困難者への支援、飼育技術の提供
- ・ 動物愛護管理センターでの獣医療への介入

<その他分野における専門職>

【勤務先例】都道府県・市区町村（福祉、住宅、防災、教育、公園、動物園管理部局等）

◆福祉部局（社会福祉課、生活支援課等）

- ・ 多頭飼育問題の早期発見および対応
- ・ 生活困窮者への支援との連携
- ・ 高齢者のペット飼育支援（飼育放棄の未然防止等）

◆住宅関係（住宅課、公営住宅管理課等）

- ・ 多頭飼育問題への対応
- ・ 適正な動物飼育に関する助言・指導

◆防災部局（防災課、危機管理課等）

- ・ 災害時におけるペット同行避難の支援
- ・ 被災動物の管理・対応
- ・ ペット防災に関する普及啓発

◆学校教育（教育委員会、学校教育課等）

- ・ 学校飼育動物の環境整備
- ・ 飼育方法や命の大切さに関する指導支援

◆公立動物園（動物園管理課、公園緑地課等）

- ・ 動物の適正管理に関する連携
- ・ 飼育環境の向上に関する助言

③ ペット産業における専門職として

＜動物の販売・飼養における専門職＞

【勤務先例】ペットショップ、ブリーダー等

- ・ 動物取扱責任者としての業務
- ・ ペットショップ、ブリーダーにおける生体管理（犬猫の健康チェック）、衛生管理
- ・ 飼い主への適正飼養指導、健康相談、フード・用品提案
- ・ ペットショップ、ペットホテルにおける適正飼養、健康管理を支える担い手（獣医療へのつなぎ）
- ・ ペットショップ、ブリーダー等での適切な飼養指導を行う

【勤務先例】トリミングサロン等

- ・ 動物取扱責任者としての業務
- ・ 健康チェックを兼ねたトリミングの実施
- ・ 飼い主へのケアアドバイス

【勤務先例】ペットホテル、ペットシッター等

- ・ 動物取扱責任者としての業務
- ・ 預かり中の健康管理（獣医療へのつなぎ）
- ・ ストレス緩和に関する業務

【勤務先例】しつけ、トレーニング関連等

- ・ 動物取扱責任者としての業務
- ・ 行動相談対応
- ・ 問題行動対応

【勤務先例】ペットフードメーカー、ペット関連用品メーカー等

- ・ 動物病院等への営業職
- ・ 動物栄養学に関する業務（栄養相談対応、セミナー講師、商品企画補助）

【勤務先例】ペット保険会社等

- ・ 保健審査
- ・ 相談対応
- ・ 商品設計補助

③ ペット産業における専門職として

<高齢飼育者および高齢動物における専門職>

【勤務先例】ペット同伴型介護施設、訪問型ペットケアサービス、老犬ホーム、高齢動物・介護専門サービス等

- ・ 動物取扱責任者としての業務
- ・ 投薬・給餌管理（獣医療との連携）
- ・ 動物の訪問介護・健康チェック
- ・ 褥瘡予防・体位変換
- ・ 排泄管理・清拭
- ・ 認知症・老齢行動への対応
- ・ 飼い主への介護指導

<ペット共生住宅・不動産分野における専門職>

【勤務先例】ペット可・ペット共生住宅関連会社、不動産・管理会社（ペット専門部門）、リノベーション・住宅設計会社（ペット対応住宅）等

- ・ ペット共生住宅の企画・設計補助（床材・動線・安全設計など）
- ・ 入居者向けの飼育ルールやサービス設計
- ・ 入居後のトラブル対応（鳴き声・臭気など）
- ・ 飼い主への適正飼養指導
- ・ 健康・衛生面のアドバイス

愛玩動物看護師の活躍が期待される主な職域



③ ペット産業における専門職として

＜ペットツーリズム・観光分野における専門職＞

【勤務先例】ペット同伴宿泊施設（ホテル・旅館）、ペットツーリズム企画会社、ドッグラン・観光施設等

- ・ 動物取扱責任者としての業務
- ・ ペット同伴利用者との円滑なコミュニケーション
- ・ 宿泊施設での動物管理・健康チェック
- ・ 宿泊者（飼い主）への注意喚起・指導
- ・ 衛生管理・感染症対策
- ・ 地域イベントやツアーの企画
- ・ ペット同伴旅行の企画・運営

＜グリーフケア・エンゼルケア分野における専門職＞

【勤務先例】ペット葬儀・火葬業者、ペット霊園、動物病院（終末期ケアを重視する施設）等

- ・ 終末期ケア（ターミナルケア）
- ・ エンゼルケア（遺体処置）
- ・ 飼い主への心理的ケア
- ・ 看取り支援・意思決定支援
- ・ 葬儀・供養のサポート

＜ペットテック分野における専門職＞

【勤務先例】ペットテック：ペットテック企業、健康データの解析・助言等

- ・ サービス設計（医療・飼育面の知見提供）
- ・ カスタマーサポート（専門対応）
- ・ アプリ・AIの監修
- ・ 遠隔健康相談（オンライン）

③ ペット産業における専門職として

<研究分野における専門職>

【勤務先例】製薬会社等

- ・ 営業・技術サポート（動物病院に対する医薬品やフードの説明）
- ・ 獣医師や愛玩動物看護師への使用方法の指導
- ・ 学会や講演会のサポート
- ・ 自社製品の適正使用の促進
- ・ カスタマーサポート：病院や飼い主からの問い合わせ対応製品の使い方や注意点の説明

【勤務先例】実験動物関係等

- ・ 実験動物の健康管理動物の体調チェック（食欲・行動・体重など）
- ・ 飼育・環境管理餌や水の管理（ケージの清掃・消毒温度・湿度・衛生環境の調整、ストレスの少ない環境づくり）
- ・ 実験や検査の補助投薬や採血の補助（実験準備や器具の管理データ記録のサポート）
- ・ 動物福祉の確保（動物に苦痛を与えない配慮（倫理管理）、適切な取り扱い方法の実施）

<展示施設（動物園等）における専門職>

【勤務先例】動物園、ふれあい施設等

- ・ 動物取扱責任者としての業務
- ・ 動物の健康管理（体調チェック（食欲・行動・排泄など、病気やけがの早期発見、獣医師の補助）
- ・ 飼育・環境整備（エサやりや清掃飼育スペースの衛生管理温度・湿度の調整）
- ・ 来場者対応、ふれあいサポート（動物との正しい接し方の説明、イベントやふれあい体験の補助）
- ・ 動物福祉の確保（動物への負担軽減（触れ合い時間の調整など））、適切な飼育や取り扱いの実施

<出版関連分野における専門職>

【勤務先例】出版社、セミナー開発企業等

- ・ 専門知識の提供・コンテンツ企画
- ・ 教育・研修コンテンツの企画開発
- ・ 情報のファクトチェックおよびリスク管理

愛玩動物看護師の活躍が期待される主な職域



④ 学校教育における専門職として

<愛玩動物看護師養成における専門職>

【勤務先例】愛玩動物看護師養成校（大学、専門学校）等

- 愛玩動物看護師養成校における教員としての業務
- 養成課程における人材育成

<学校飼育動物分野における専門職>

【勤務先例】自治体、学校飼育動物サポート団体（獣医師会等）、動物愛護団体（学校訪問）等

- 学校飼育動物の健康管理
- 飼育環境の改善に関する助言
- 教員・児童への飼育指導
- 命の教育の実施
- 咬傷事故および感染症の予防指導
- 動物介在教育活動の実施

⑤ 多様な機関との連携における専門職として

＜協会、社団法人等の民間団体における専門職＞

【勤務先例】補助犬や使役犬団体（協会、NPO、社会法人等）、動物介在分野、動物保護・愛護団体等

- ・ 動物取扱責任者としての業務
- ・ 補助犬や使役犬の飼養管理
- ・ 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育での適正飼養の指導・助言
- ・ 動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の人への身体的・心理的影響の理解・啓発支援
- ・ 公衆衛生学的視点からの支援
- ・ 行動学的視点からの支援

＜ペット防災における専門職＞

【勤務先例】自治体、ペット防災NPO・団体、災害時動物救護団体、ペット同行避難支援サービス等

- ・ 災害時の同行避難支援
- ・ 避難所での動物の飼養管理（ストレス緩和介入等）
- ・ 飼い主への事前準備指導（備蓄・同行避難）
- ・ 防災講習・セミナー実施
- ・ マニュアル作成・普及啓発

愛玩動物看護師の愛護適正飼養分野での活躍状況



■自治体での採用状況

雇用実態調査の実施（令和7年度結果）

【対象】都道府県、政令市、中核市、その他市町村

【雇用状況】

	雇用している	雇用していない
都道府県（n=46）	8	38
政令市（n=20）	4	16
中核市（n=61）	7	54
その他市町村 （n=1109）	0	1,109
全体（n=1,236）	19	1,217

【業務内容】

- ・収容犬猫の飼養管理
- ・収容動物の譲渡及び馴化
- ・獣医療（治療や予防等）の補助
- ・窓口及び電話対応等

【雇用形態】

- 正規職員として採用（免許保有者を採用） 0%
- 正規職員として採用（正規職員が免許を取得） 10.5%
- 会計年度任用職員として採用（免許保有者を採用） 47.4%
- 会計年度任用職員として採用（採用者が免許保有者） 47.4%

愛玩動物看護師の愛護適正飼養分野での活躍状況

■ 就職状況等調査（令和7年度結果）

就職状況調査

調査対象：令和7年3月31日時点の卒業生の就職先

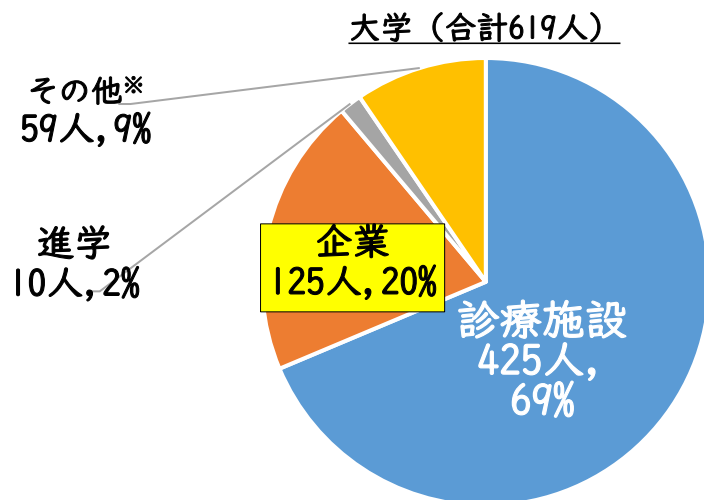
調査項目：卒業生の性別、出身都道府県名、職種別分類（大・小）、就職先都道府県名

回答結果：大学619人 養成所2031人

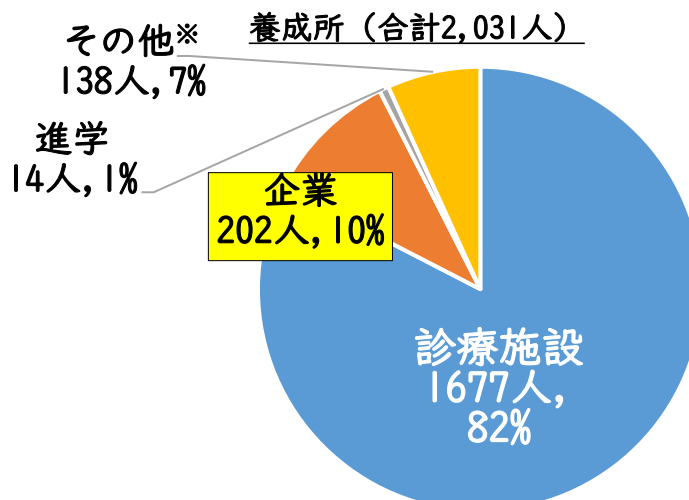
結果概要：大学では、約69%が診療施設、約20%が企業、約2%が進学。養成所では、約82%が診療施設、約10%が企業、約1%が進学。

大分類：企業

小分類：・愛玩動物関係：ペットフード、ペットショップ、トリミングサロン、ブリーダーなど愛玩動物が主たる業務対象である企業。ペット保険に関する企業や、これらの企業を自分で開業した場合等も含む。
・その他：製薬企業（実験動物関係を含む）、医薬品販売業、食品企業、検査・分析等機関、動物園・水族館など愛玩動物が主たる業務対象ではない企業。



企業 125人（20%）
・愛玩動物関係：35人（約28%）
・その他：90人（約72%）



企業 202名（10%）
・愛玩動物関係：113名（約56%）
・その他：86名（約43%）
・不明（空欄）：3名（約1%）

※「その他」は、愛玩動物看護師養成校への就職者、未就職卒業者の他、非正規雇用社員等が含まれる。

愛玩動物看護師の愛護適正飼養分野での活躍状況

■ 愛玩動物看護師現況調査（令和6年度結果）

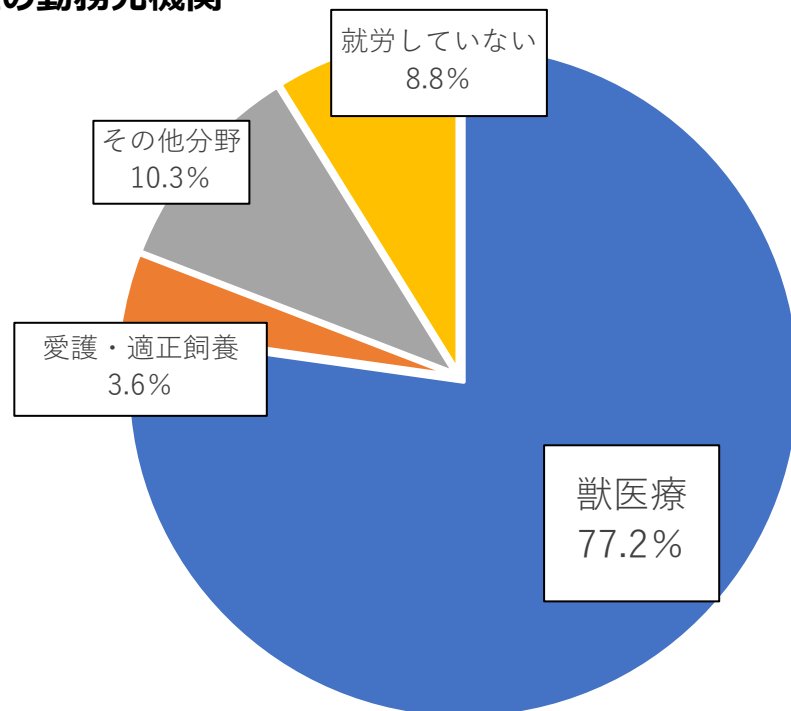
調査対象：令和6年12月末日時点の愛玩動物看護師登録者全員（約2万2千人）

調査項目：

- （1）基本属性：年代、性別、現住所都道府県、出身地都道府県、受験資格区分、合格年月日、実務経験年数、認定動物看護師資格の有無
- （2）勤務先機関：獣医療分野/愛護・適正飼養分野/教育等
- （3）愛玩動物看護師の業務への従事状況
- （4）愛玩動物看護師の業務に従事している愛玩動物看護師の状況：勤務時間数、給与形態/収入等
- （5）愛玩動物看護師の業務を実施している／していない愛玩動物看護師からの意見・要望（自由記載）：働き方、活動内容、キャリア形成等

回答結果：回答者数 5,209人

現在の勤務先機関



勤務先機関	回答数	割合 (%)
愛玩動物診療施設	4,011	77.00
現在就労していない	460	8.83
愛玩動物看護師養成教育機関	125	2.40
大学・研究所等	55	1.06
トリミングサロン関連★	47	0.90
ペットショップ関連★	45	0.86
薬品関係	38	0.73
検査関連企業	28	0.55
ブリーダー関連★	25	0.48
動物園・動物公園★	24	0.46
国又は地方公共団体の動物愛護管理機関	21	0.40
ペット保険関連企業	20	0.38
ペットのシッター★	15	0.29
動物愛護団体★	14	0.27
「愛玩動物」以外の飼育動物診療施設	12	0.23
ペットフード関連企業	12	0.23
動物介護施設★	10	0.19
食品関連企業	8	0.15
水族館★	5	0.10
出版関連企業	5	0.10
ペットホテル★	4	0.08
その他	225	4.32
計	5,209	100

■ 過年度の調査において指摘された事項

■ 全般

- 愛玩動物看護師の認知度の向上が重要
- 給与額の見直しや資格手当の支給など待遇面の向上が重要
- 高校生や養成校の学生に対する活躍機会の周知が重要

■ 民間企業での登用に関して

- 職務内容の明確化、専門性の可視化、給与、待遇の改善が重要
- 愛玩動物看護師が社会に認められることがさらなる活躍に重要
- 愛護適正飼養分野における業務内容を愛玩動物看護師自身や雇用側に周知することが重要

■ 自治体での登用に関して

- 愛玩動物看護師ならではの業務内容は限定されているため、新たな職種としての位置づけが難しく、その結果、正規職員としての採用ではなく会計年度任用職員の採用になりがち
- 会計年度任用職員の提示給与は民間企業等よりも低く、募集しても応募者があまり無いのが現状
- 長期間異動せず同じ業務の繰り返しとなるため職場内でのマンネリ化が進むこと、給料や福利厚生が充実している民間企業への転職が懸念されるため、新たな業務の設計、国や他行政での採用実績に基づいた適正な給与設定が重要
- 大学、自治体、各団体等のネットワークや情報交換が重要